

第2学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「思い出して 書こう」 教材名「日記を 書こう」

2 単元の目標

言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気づくことができる。（〔知識及び技能〕(1)ア）
経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。（B(1)ア）
その日に経験した出来事を選び、日記に残す学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には、経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 （〔知識及び技能〕(1)ア）	①「書くこと」において、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。 （B(1)ア）	①その日に経験した出来事を選び、日記に残す学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

その日に経験した出来事を選び、日記に残す。この教材では、日付、出来事の様子、気持ちを書いた日記を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）
.....
.....
.....

（3）指導について

学校生活の共通体験からも選べるようにし、いつ・どこで・何をしたかを口頭で確認する。毎回特別な出来事を探させない。想定する難しさは、楽しかったとだけ書き、出来事の様子が伝わらない。評価では、経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしているかを、日付、出来事の様子、気持ちを書いた日記と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全4時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 当日の学校生活を振り返り、出来事と自分の感想を分ける。	学習状況を見て支援する。
第2次	2～3 （本時）	○当日の学校生活を振り返り、出来事と自分の感想を分ける。した順序に沿って短い日記を書き、主語と文末を読み返す。	思①（発言・活動中の記録・作成物）
第3次	4	○読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。学習前後の記録を比べて、確かめたことをまとめる。	態①（学習前後の記録と見直しの理由）



6 本時の指導 (2/4)

(1) 本時の目標

経験したことなどから書くことを見つけ、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にすることができる。(B(1)ア)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 ○「今日のどの出来事を、後で読み返せるように残したいですか」 【めあて】その日に経験した出来事を選び、日記に残す。 〈予想される児童の反応〉 ・起きたことと自分の気持ちを分けて書きたい。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「今日のどの出来事を、後で読み返せるように残したいですか」 当日の学校生活を振り返り、出来事と自分の感想を分ける。した順序に沿って短い日記を書き、主語と文末を読み返す。 読み手が受け取った意味を確かめ、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・起きたことと自分の気持ちを分けて書きたい。 ・順に書くと何があったか伝わる。	学校生活の共通体験からも選べるようにし、いつ・どこで・何をしたかを口頭で確認する。毎回特別な出来事を探させない。 想定する難しさ：楽しかったとだけ書き、出来事の様子が伝わらない。 評価では、経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしているかを、日付、出来事の様子、気持ちを書いた日記と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 経験したことなどから書くことを見付け、必要な事柄を集めたり確かめたりして伝えたいことを明確にしている。 (発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 日付、出来事の様子、気持ちを書いた日記を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・順に書くと何があったか伝わる。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確かめる。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「今日のどの出来事を、後で読み返せるように残したいですか」。中央は、日付、出来事の様子、気持ちを書いた日記に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

